

第67回 横浜市港湾審議会

〔議題〕

- 1 横浜港港湾計画の輕易な変更
- 2 横浜港臨港地区内の分区の変更
- 3 令和元年度港湾環境整備負担金
の負担対象工事の指定

【議題1】

横浜港港湾計画の輕易な変更

【議題2】

横浜港臨港地区内の分区の変更

諮問書(写)

港湾政第997号

令和元年12月9日

横浜市港湾審議会

委員長 川嶋 康宏 様

横浜市長 林 文子



横浜港港湾計画の軽易な変更について（諮問）

横浜市港湾審議会条例第2条の規定に基づき、横浜港港湾計画の軽易な変更について、貴審議会の意見を求めます。

諮問書(写)

港湾政第997号

令和元年12月9日

横浜市港湾審議会

委員長 川嶋 康宏 様

横浜市長 林 文子



横浜港臨港地区内の分区の変更について（諮問）

横浜市港湾審議会条例第2条の規定に基づき、横浜港臨港地区内の分区の変更について、貴審議会の意見を求めます。

港湾計画の変更(軽易な変更、分区変更)

軽易な変更の案件

○金沢地区

- ・港湾環境整備施設の位置付け(緑地 13.0ha→緑地 20.5ha)

○神奈川地区・鶴見地区

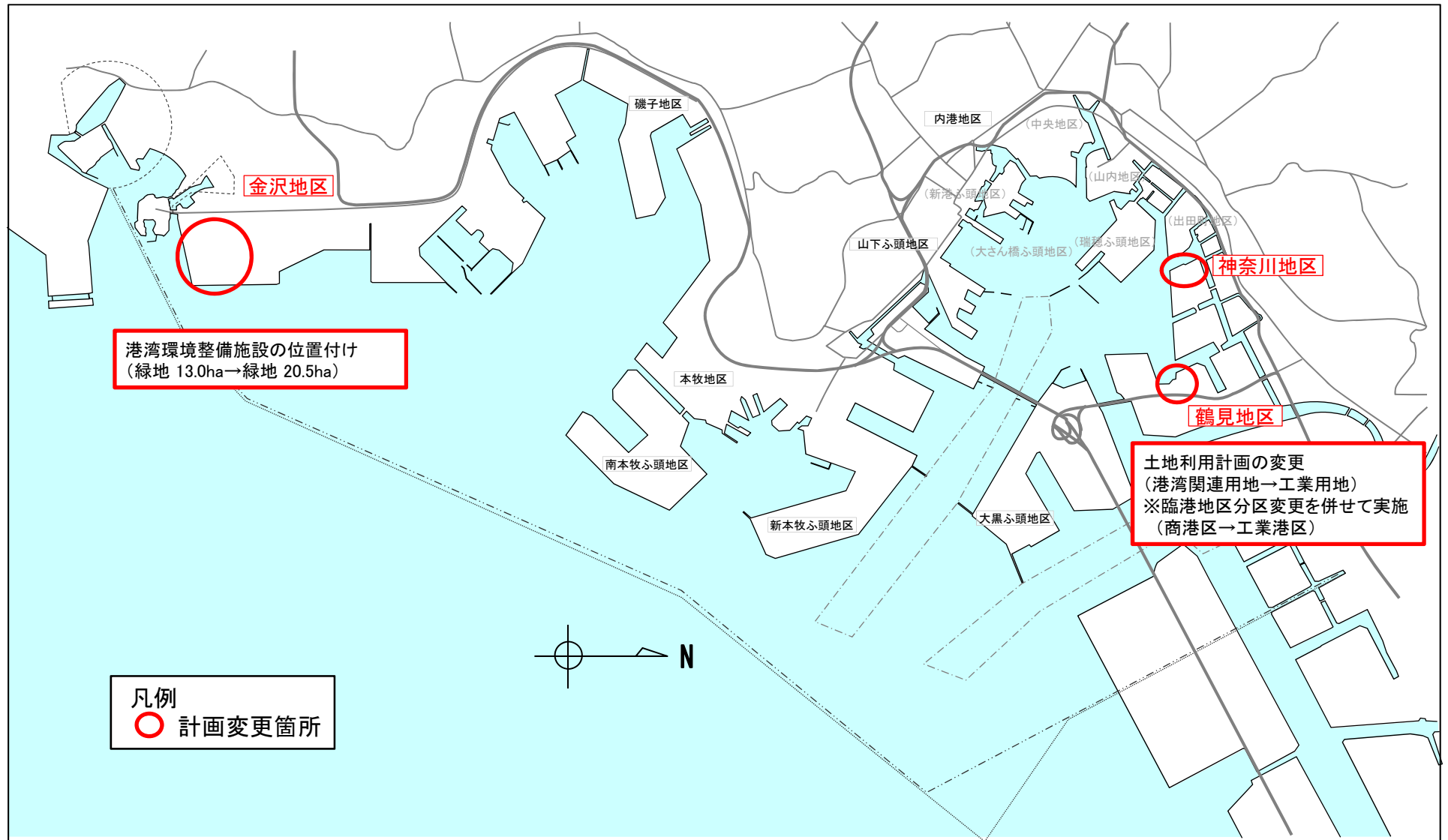
- ・土地利用計画の変更(港湾関連用地→工業用地)

分区変更の案件

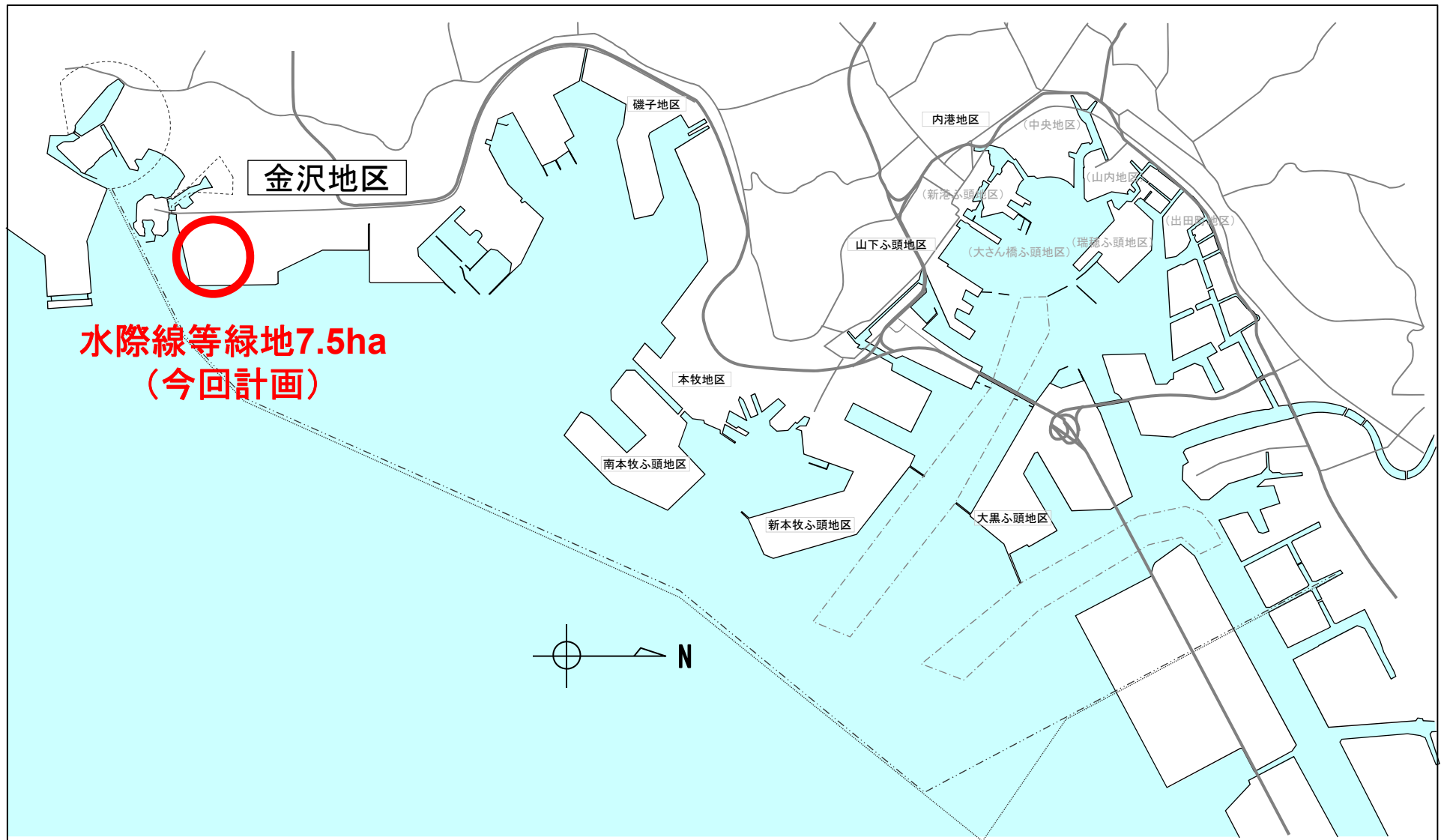
○神奈川地区・鶴見地区

- ・臨港地区の分区変更(商港区→工業港区)

横浜港港湾計画(軽易な変更)の位置図

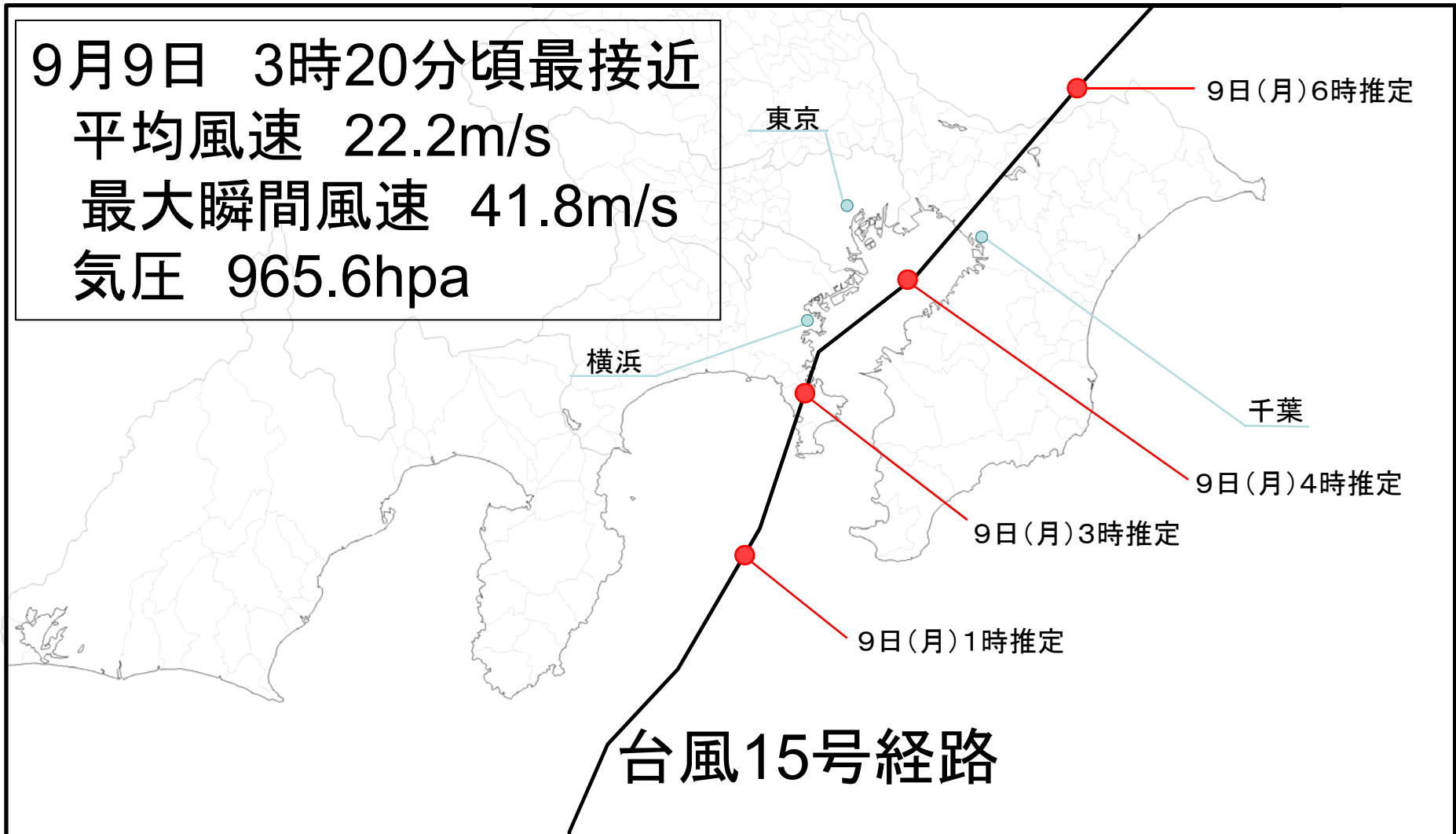


【金沢地区】計画変更の内容



台風15号

9月9日 3時20分頃最接近
平均風速 22.2m/s
最大瞬間風速 41.8m/s
気圧 965.6hpa



台風15号経路

護岸の被災状況（範囲）



2019/9/9時点 ※倒壊延長は目測

護岸の被災状況

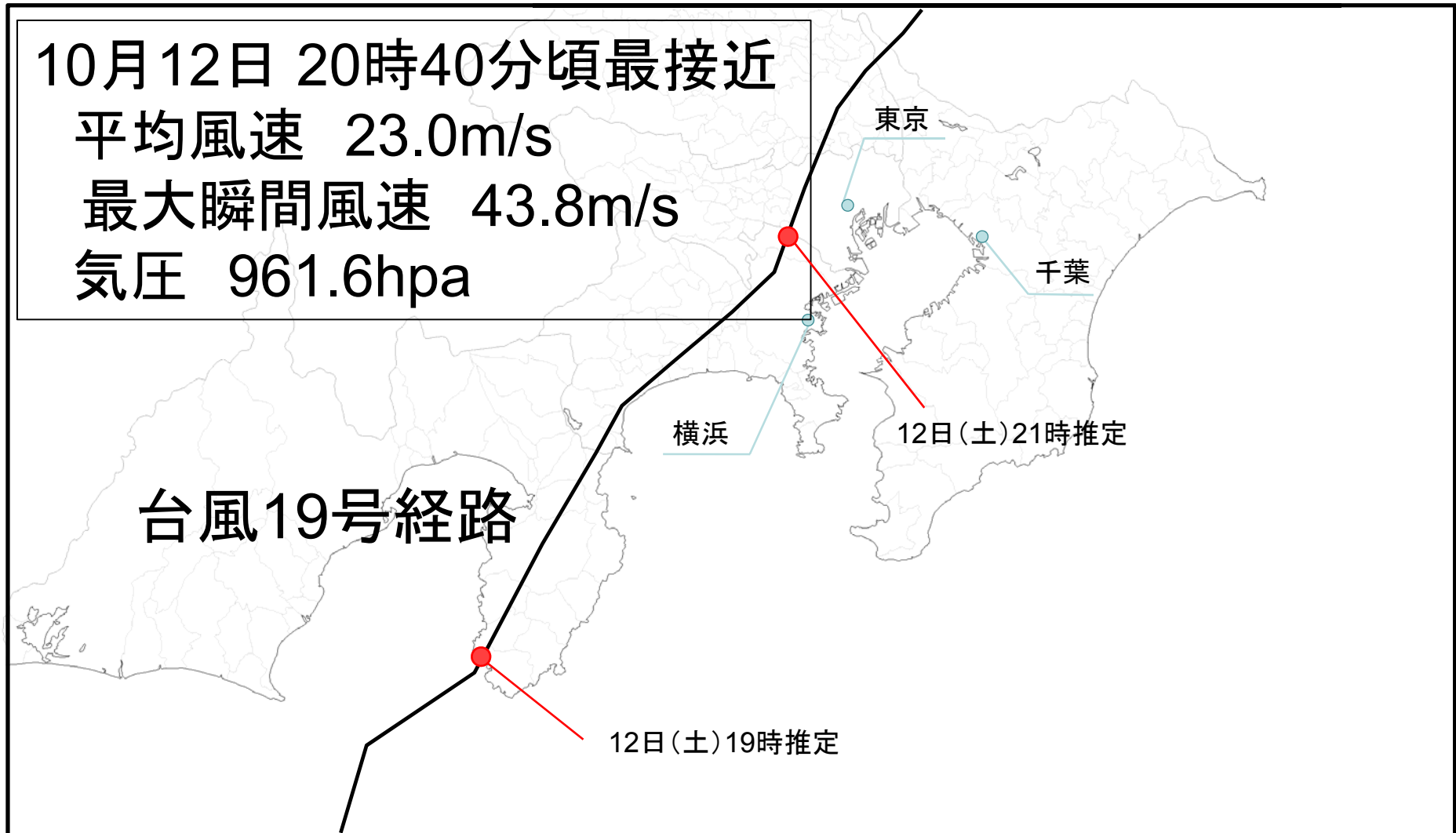


港湾局の応急対応

- 護岸の仮復旧
 - 福浦地区は9月18日完了
 - 幸浦地区は9月23日完了

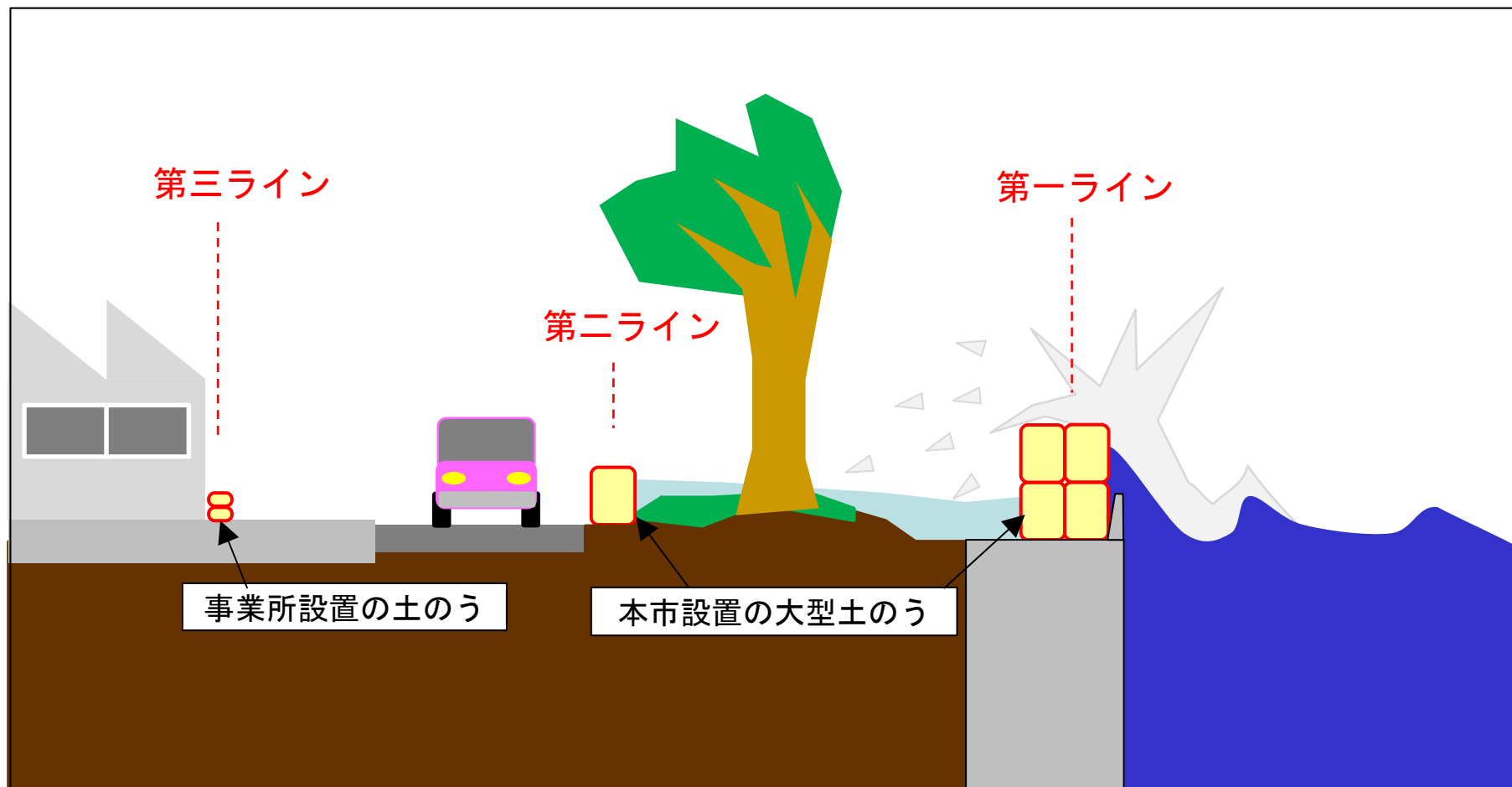


台風19号



金沢区福浦・幸浦における台風19号の浸水対策

- 台風15号により護岸上部が損壊したため、大型土のうを設置し応急復旧を実施
- 台風19号により土のう積みが一部崩壊したものの、三列に配置していたことで浸水被害を防止



越波の状況（台風19号）



越波の状況（台風19号）

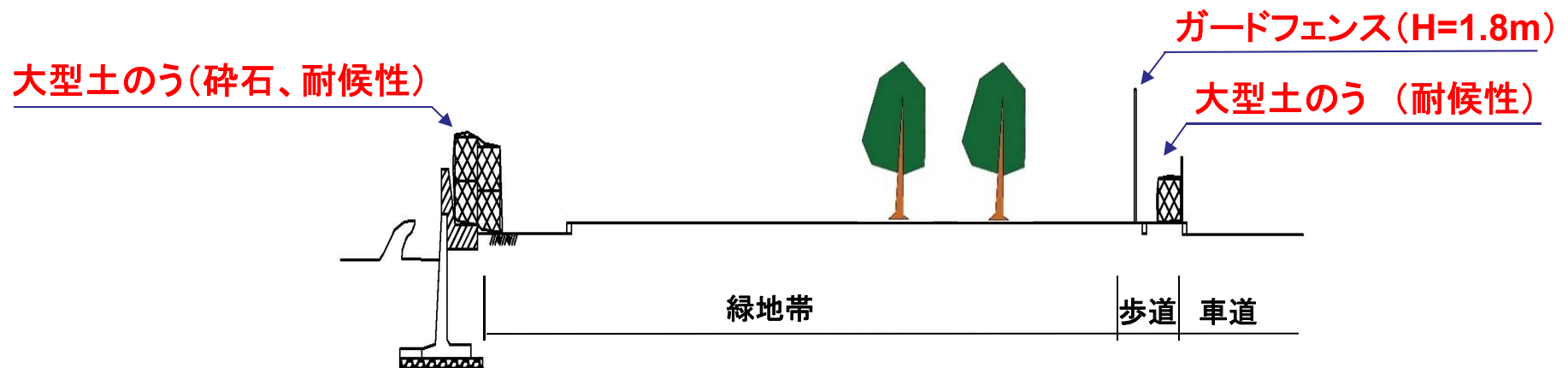


土のうによる浸水被害の防止



仮復旧について

○本復旧までの間、万全を期すために、土のうの袋を耐候性に、中身を砕石に変更、ネットで一体化し更に増強。また、立入りを防止するためガードフェンスを設置。



台風15号を踏まえた護岸復旧等の検討について

○国と横浜市で各々委員会を設置

■東京湾における高波対策検討委員会(国)
・設計波の見直し・護岸の設計手法の検討

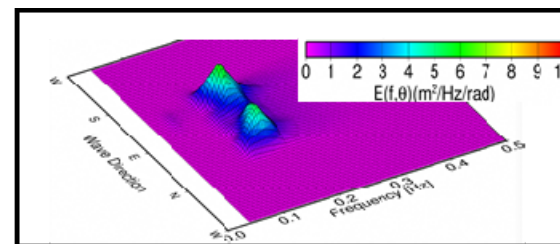


■横浜港護岸復旧工法検討会(横浜市)
・復旧断面の設計・工法の検討

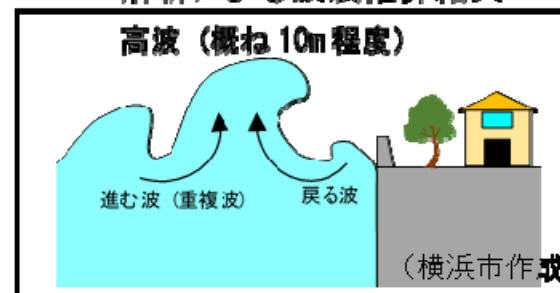
- 合同会議(10月8日)での見解として、強風と急激な風向きの変化により、二方向からの波(重複波)が発生し、護岸から戻る波と重なり合い、高波(概ね10m程度)が生じたと推定
- 国の委員会(11月25日)で新たな設計波の考え方が示され、これを受け、市の検討会(11月26日)で福浦地区の護岸復旧方針を取りまとめ。
- 令和2年の台風シーズン前までに直立消波ブロック設置、既設パラペットの嵩上げ等を概成できるよう取り組む。
- 本牧等その他の地区についても、今回の検討を踏まえ、対応を進める。



二方向からの波【重複波】

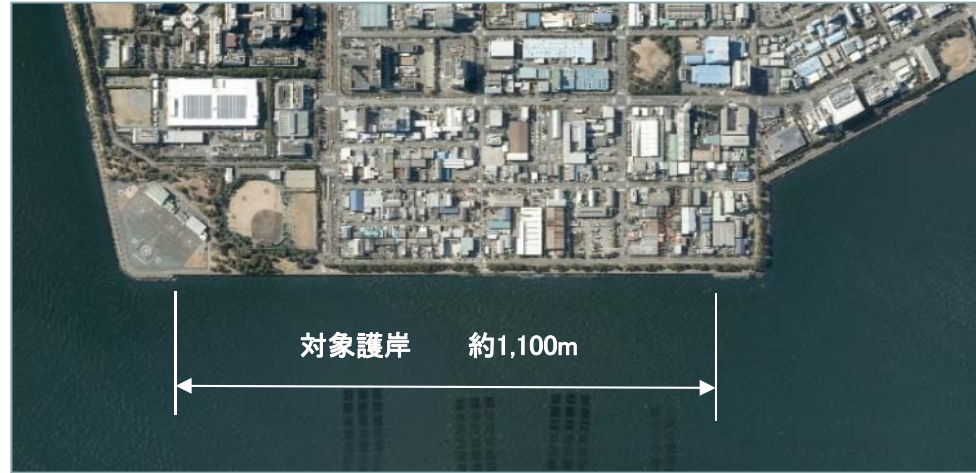
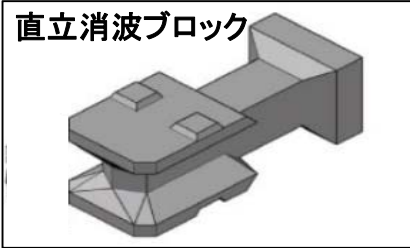


解析による波浪推算結果

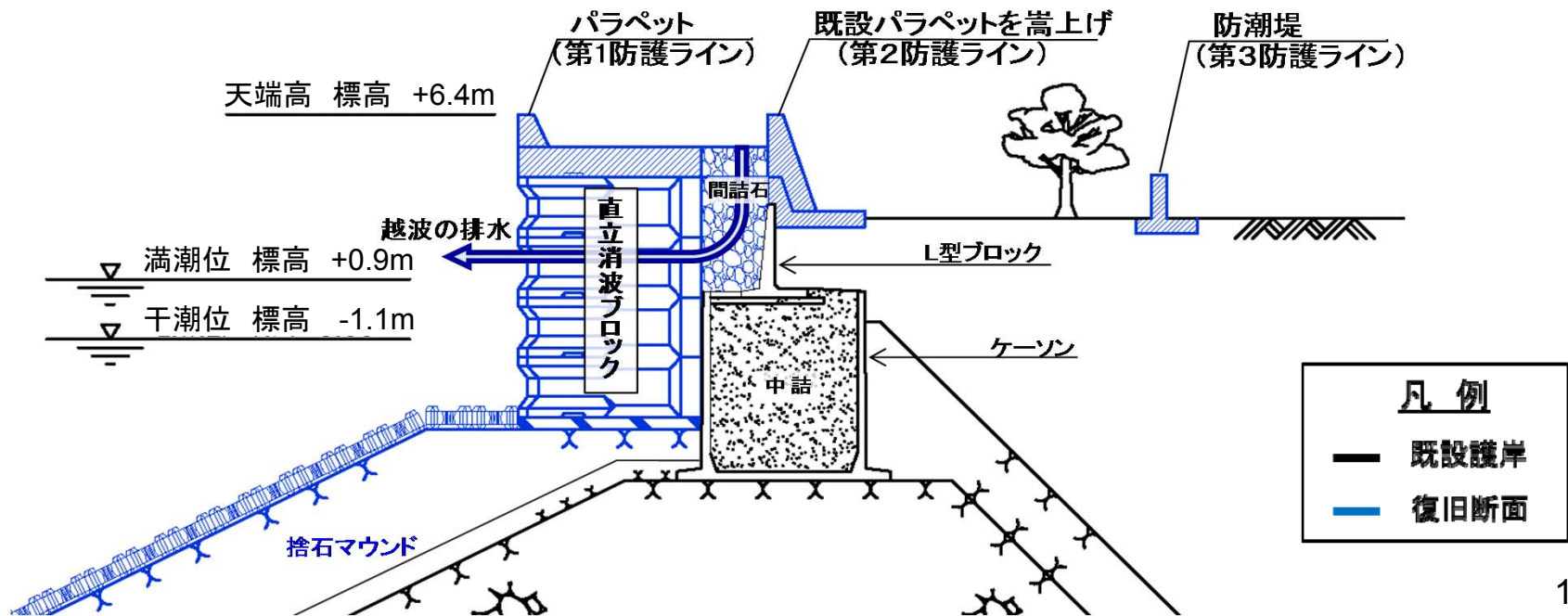


高波発生イメージ

福浦地区（消波ブロックのない区間）復旧断面



三重の防護



【今回計画】水際線緑地・ヘリポート緑地等について

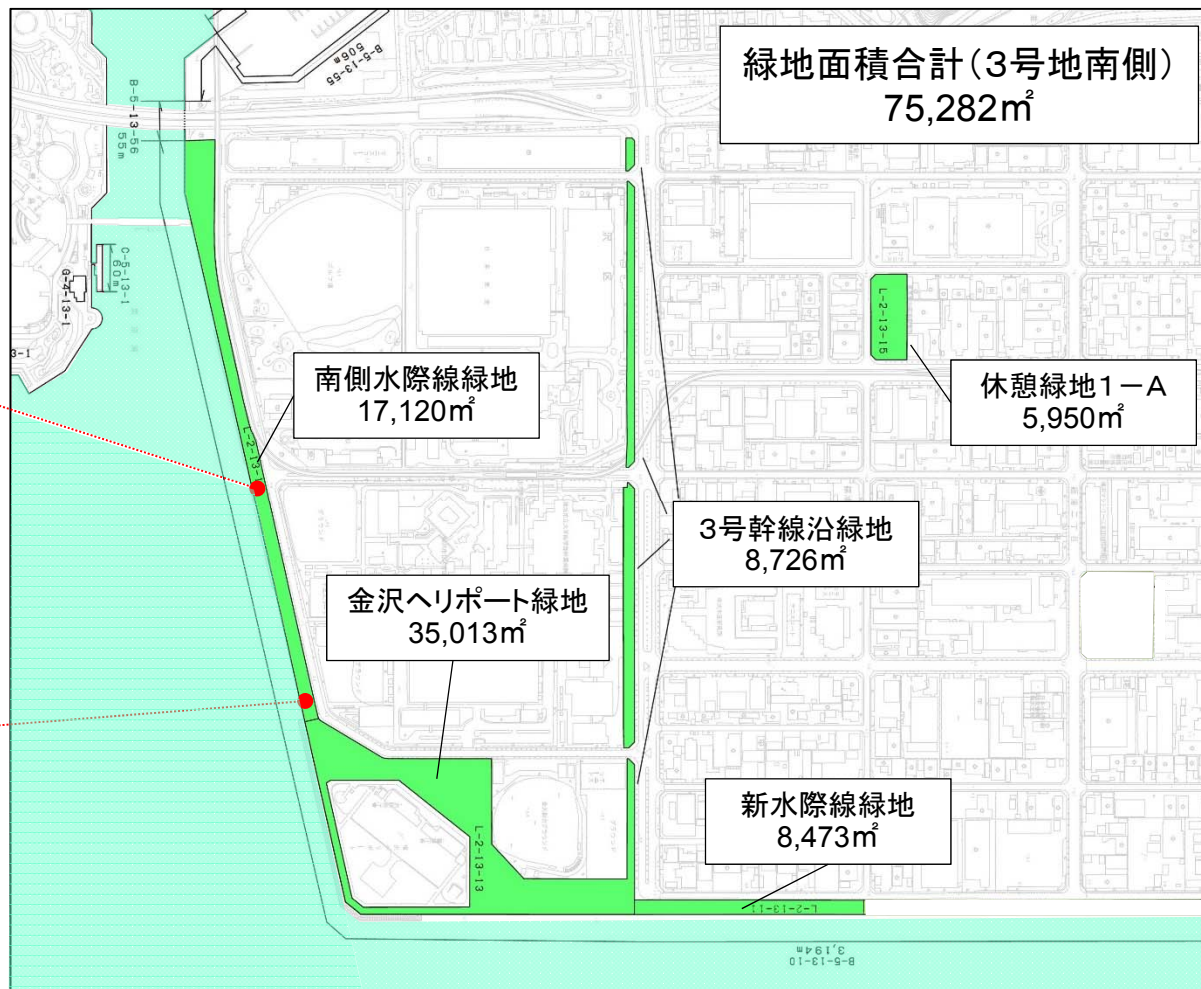
- 今回計画の緑地は約7.5haであり、休息緑地・修景緑地として、周辺事業者や市民の憩いの場となっている。
- 臨港地区外であるが、これらの緑地を港湾計画に位置付け、今後起こりうる最大級の高波に耐えられる護岸の整備を行う。



南側水際線緑地



緑地に集う釣り人



【鶴見地区・神奈川地区】土地利用の現状について

- 鶴見区大黒町から神奈川区恵比須町は昭和初期に埋め立てられ、京浜工業地帯を形成してきた。
- 昭和40年に横浜港内に臨港地区を指定し、港湾の機能の維持と環境保全、安全確保を図ってきた。



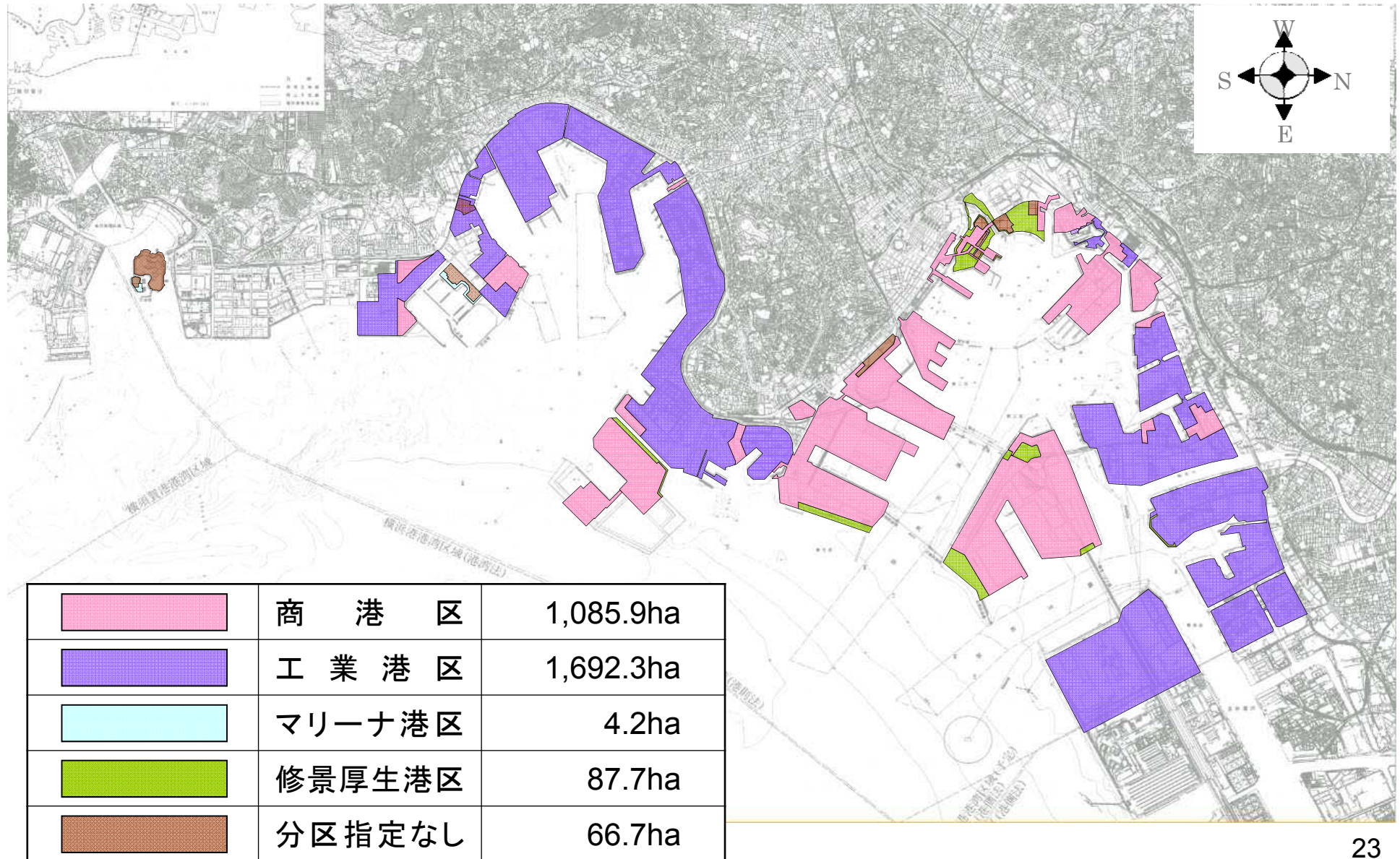
【鶴見地区・神奈川地区】港湾計画と臨港地区

- 港湾計画の土地利用計画では港湾を有効かつ適切に利用することができるよう土地利用の区分を定めている。
- 港湾計画で定める土地利用計画に沿った利用形態に誘導するためには臨港地区における分区指定が必要。

港湾計画の土地利用区分と臨港地区の分区(例)

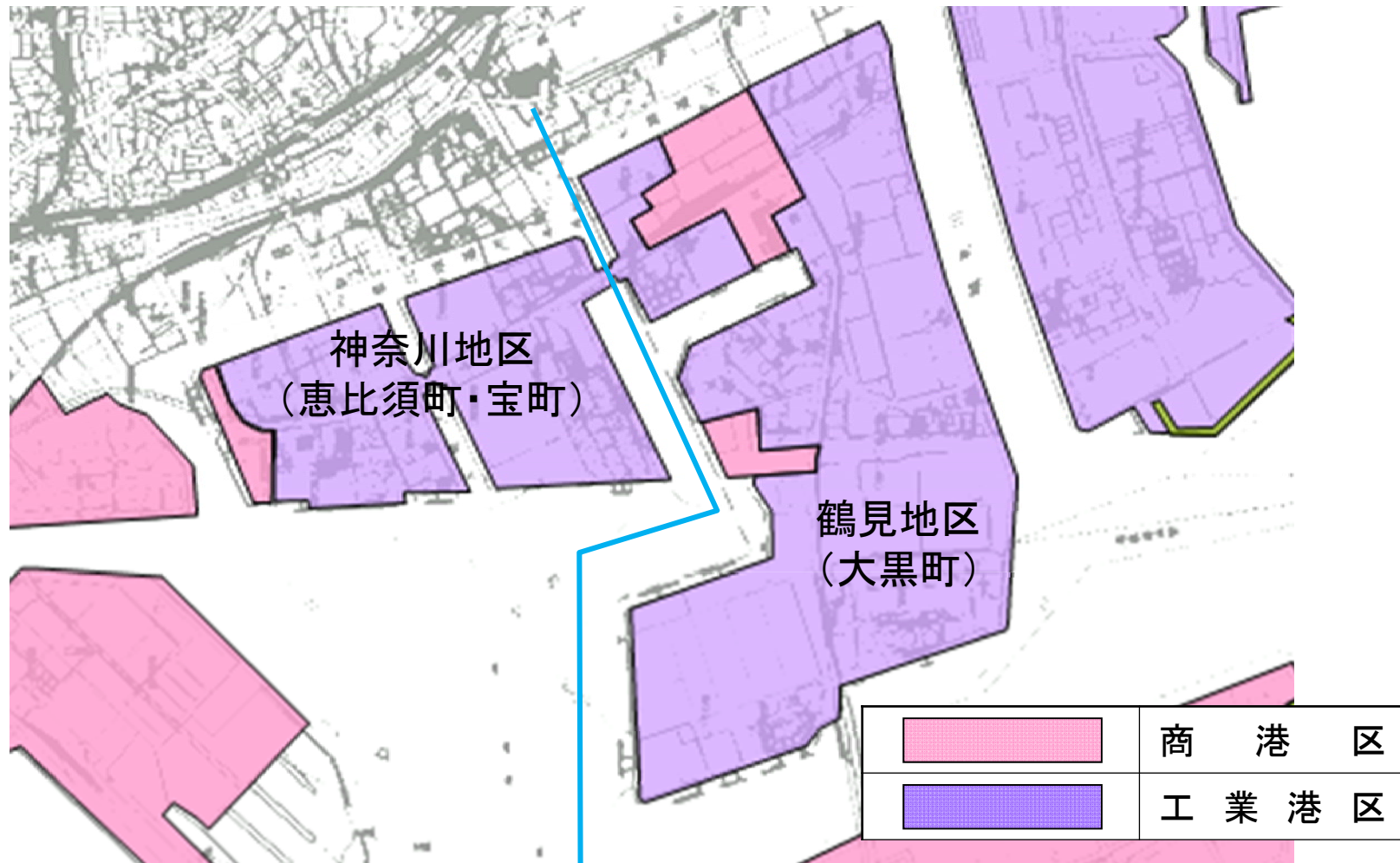
土地利用区分 (港湾計画)	臨港地区の分区	主な用途
港湾関連用地	商港区	保管施設、事務所等
工業用地	工業港区	工場、保管施設、 研究施設等

横浜港臨港地区の分区指定状況



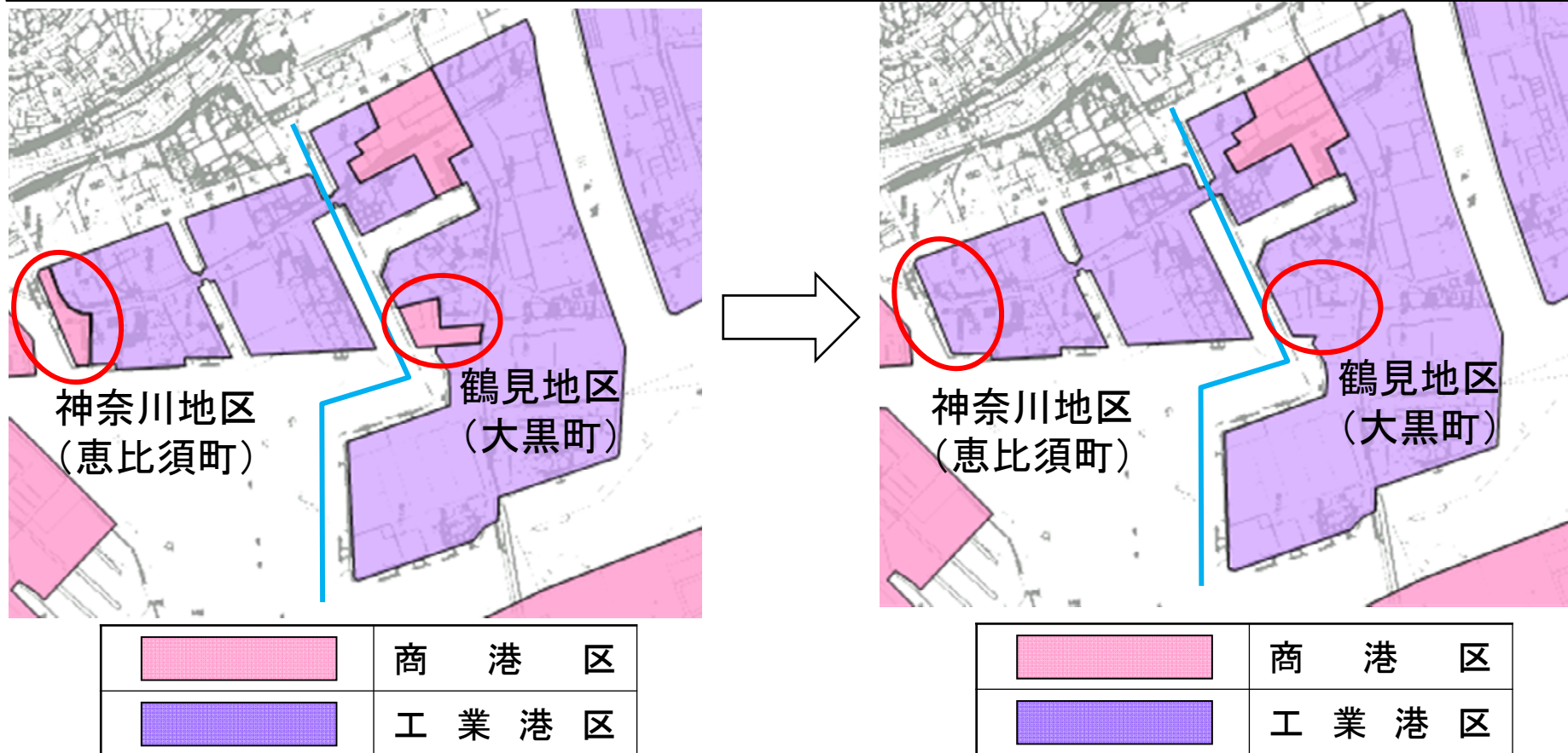
【鶴見地区・神奈川地区】臨港地区の分区指定状況

○鶴見地区、神奈川地区(恵比須町・宝町)では、大部分を工業港区としているが、一部商港区が存在する。

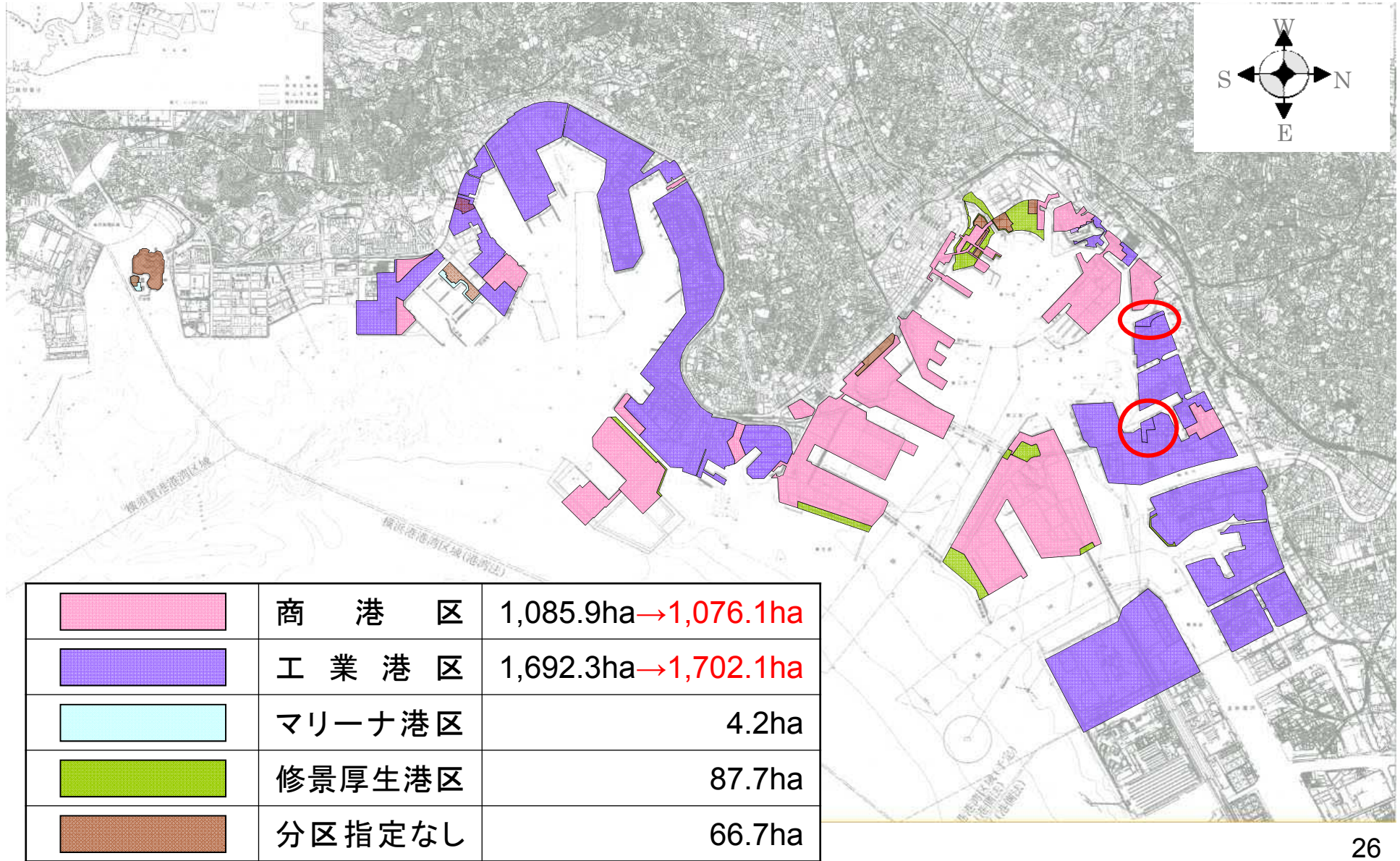


横浜港臨港地区の分区の変更(商港区→工業港区)

- 鶴見地区(大黒町)、神奈川地区(恵比須町)の2地区において、立地企業が塗料や潤滑油の原料となる輸出入品の貯蔵需要に応えるため、保管施設の改修・増床を計画している。
- これを機に、周辺の土地利用との整合を図るため、2地区について、商港区から工業港区への分区変更を行う。



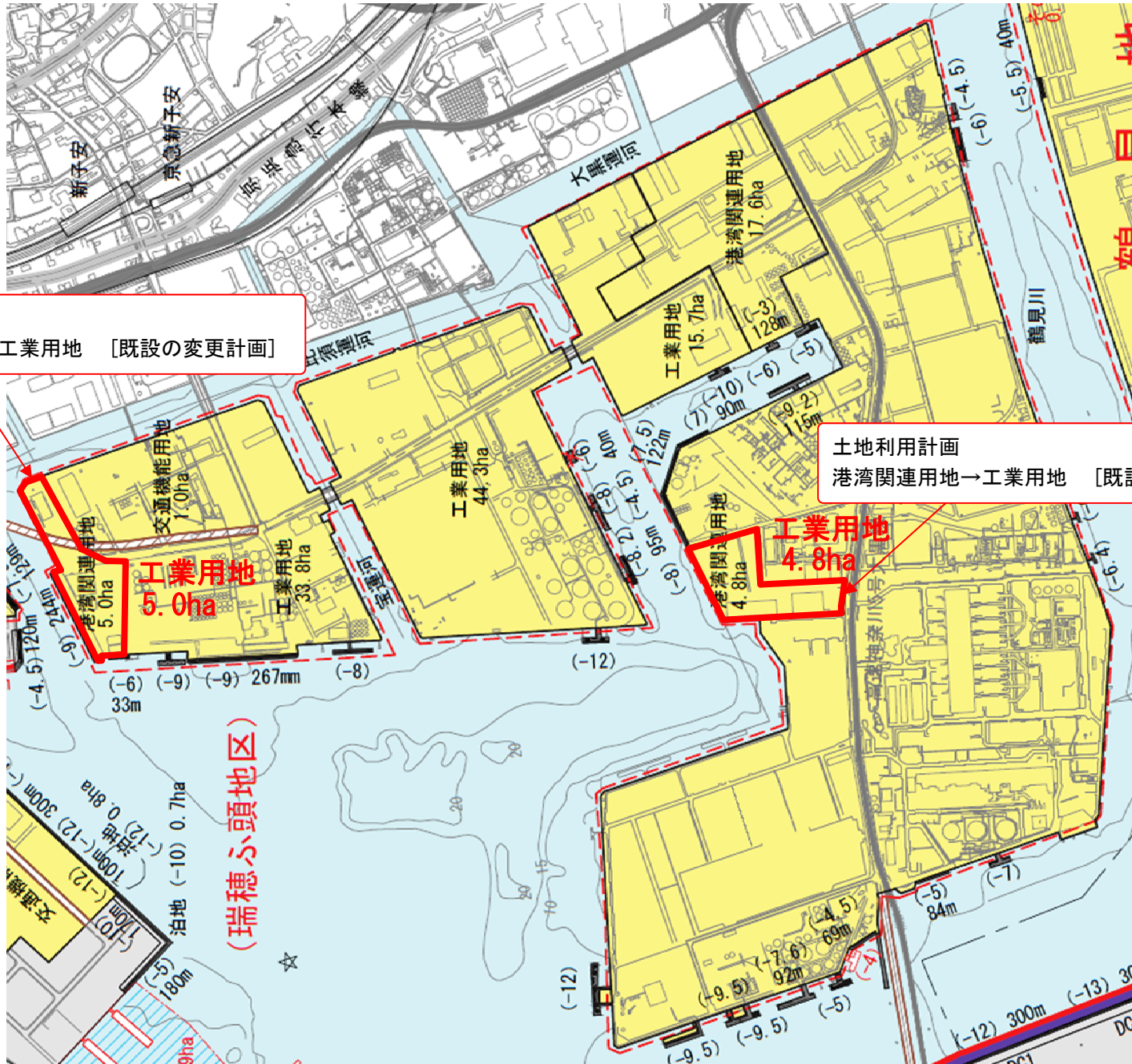
横浜港臨港地区の分区の変更



港湾計画の変更内容

土地利用計画
港湾関連用地→工業用地 [既設の変更計画]

土地利用計画
港湾関連用地→工業用地 [既設の変更計画]



【議題3】

令和元年度港湾環境整備負担金
の負担対象工事の指定

諮問書(写)

港湾管一第 602 号

令和元年 12 月 9 日

横浜市港湾審議会

委員長 川嶋 康宏 様

横浜市長 林 文子

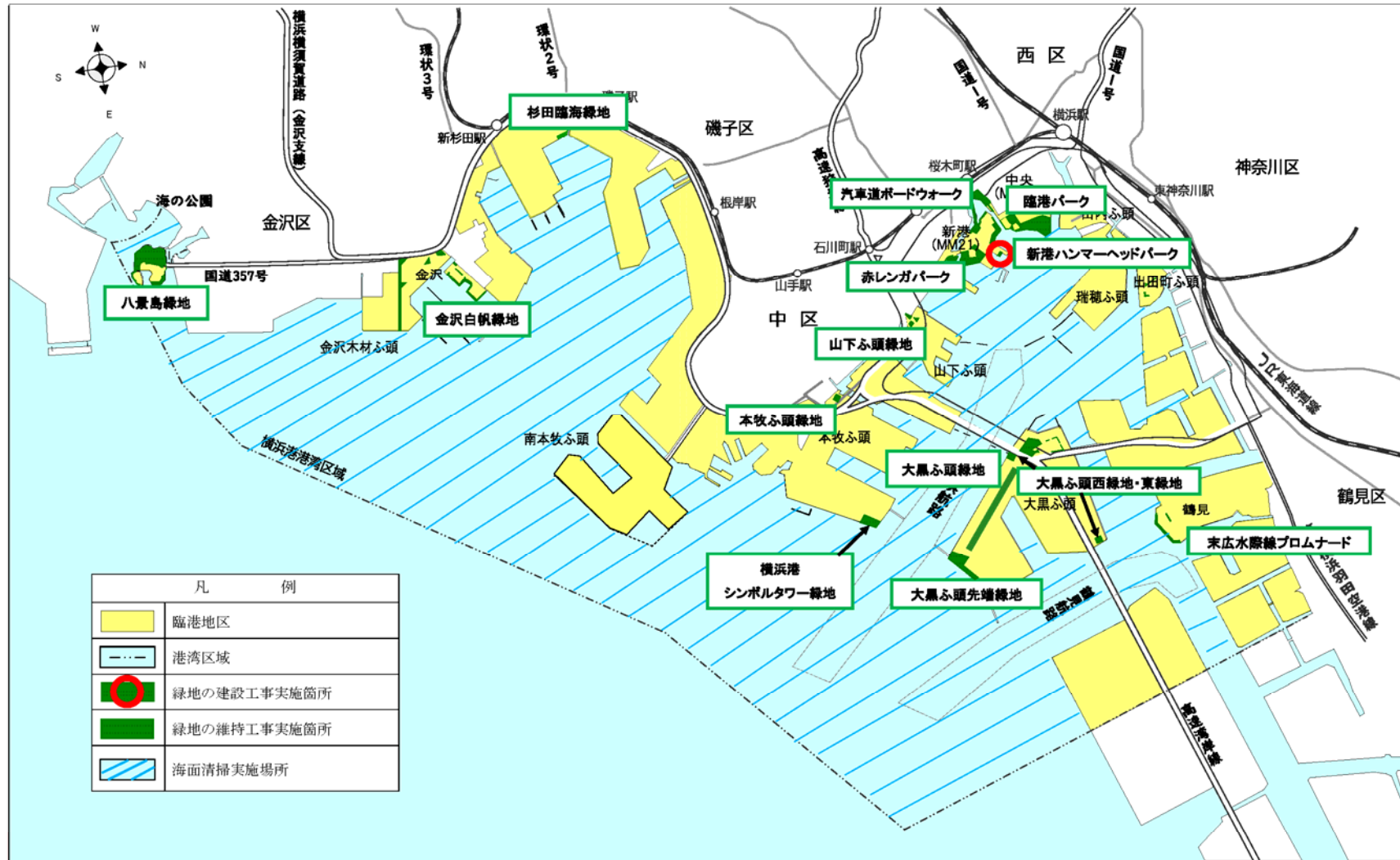


令和元年度港湾環境整備負担金の負担対象工事の指定について（諮問）

横浜市港湾環境整備負担金条例（昭和 55 年 3 月横浜市条例第 8 号）第 4 条
第 1 項の規定により令和元年度港湾環境整備負担金の負担対象工事の指定を
するにあたり、同条例第 12 条の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。

港湾環境整備負担金負担対象工事位置図

平成 31 年 3 月 31 日現在



3 令和元年度港湾環境整備負担金対象工事の例 (1) 港湾環境整備施設の建設・改良の工事

新港ふ頭客船ターミナル（10月31日オープン）



1 施設の概要

【客船ターミナル】

所 在：横浜市中区新港二丁目14番1

階 数：地上5階 S造

延床面積：約30,000㎡

CIQ 施設：約4,200 ㎡(1階)

【岸壁】

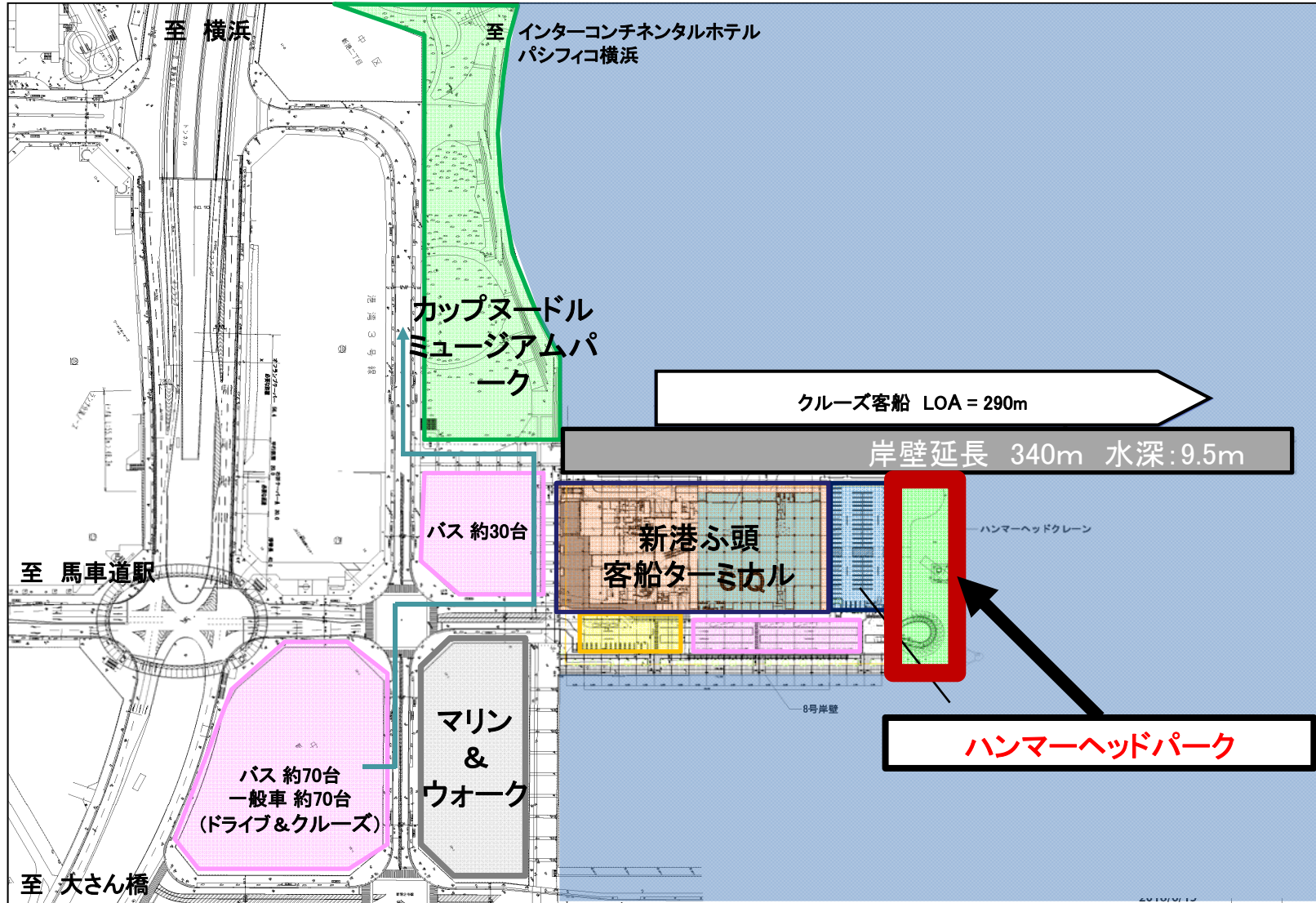
延 長：340 m 水 深：9.5 m

11月4日(月・休)に客船「ダイヤモンド・プリンセス」が第一船として寄港

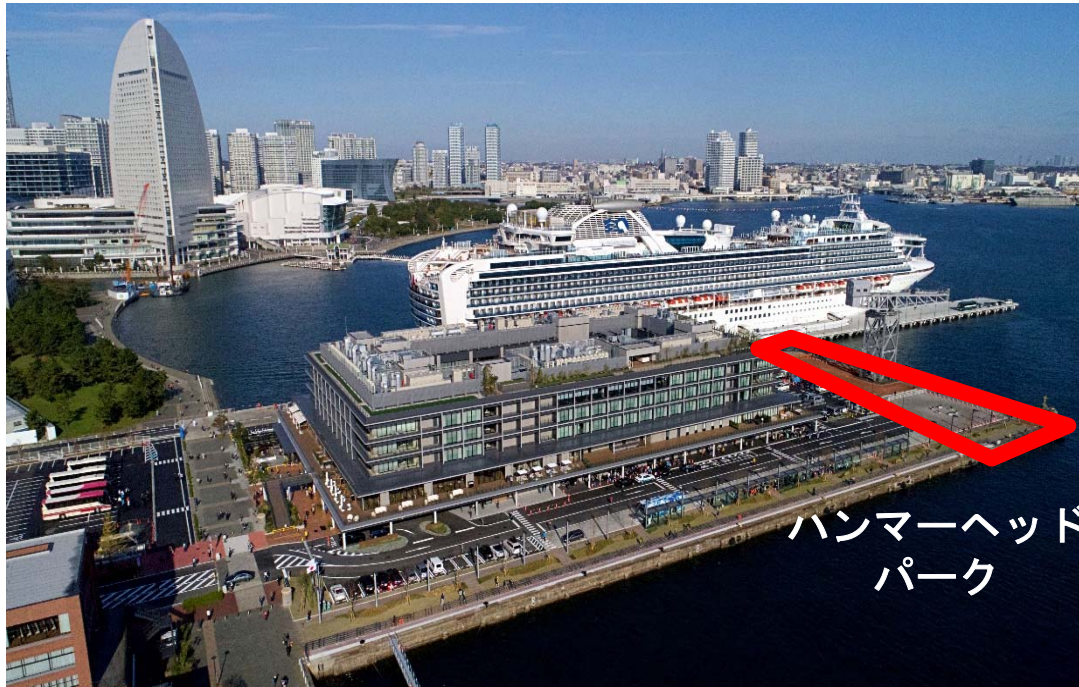
2 施設の特徴

1階のCIQ施設(Customs(税関),Immigration(出入国管理),Quarantine(検疫))を中心に1～2階は飲食店など、3～5階はホテルとなっています。乗船までの待ち時間やクルーの滞在時間をよりお楽しみいただけます。

ハンマーヘッドパーク 施設案内図



ハンマーヘッドパーク 施設概要



ハンマーヘッドパークは、新港ふ頭客船ターミナルに隣接し、近代産業遺産であるハンマーヘッドクレーンを有する開放的な広場空間として整備を行っており、令和2年度の工事完了を予定しています。広場は客船寄港時の歓送演奏をはじめ、多目的なイベント広場として使用します。また、災害時には防災拠点として緊急物資を受入れ荷捌き地として使用します。

令和元年11月現在



(2) 港湾環境整備施設の維持の工事

赤レンガパーク内 ベンチ補修

(位置図)



(施工前)



(施工後)



(3) 港湾における漂流物の除去その他の清掃のための工事

海面清掃業務

